

英伊両言語における擬音語の対照研究

古 浦 敏 生

§ 1 擬音語の定義と本稿の目的

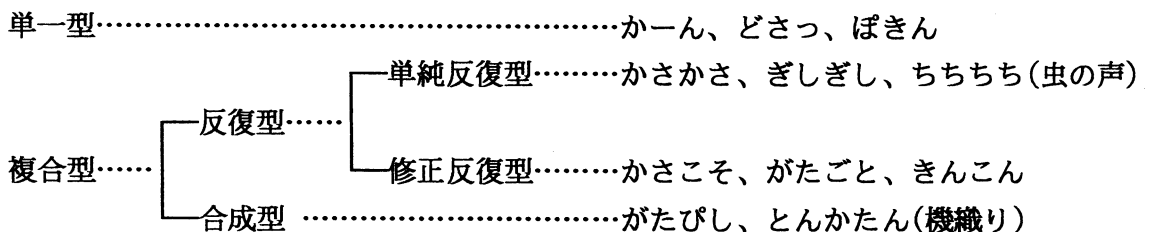
「擬音語」とは「自然音を模倣することによって作られた語彙単位」のことである。時計の音を再現しようとするtic-tac, ニワトリの鳴声をまねるcocoricoなどがそれである。デュボワによれば、“フランス語が、他の言語に比べて、擬音語に対する受容力が最も小さい点は、注意すべきである。英語はより多くの擬音語を創造するし、さらにまた、より容易に、これらの擬音語を派生系列に統合する”とされている¹⁾。

さて、フランス語と同系統のイタリア語ではどうであろうか？ミリオリーニはイタリア語の擬音語の用例として“タイプライターのキーを打つ行為を指しているticchettio管からゴボゴボ音をたてながら出て来る水の音をまねていうgloglottioなどがそれである”と指摘している²⁾。このほか、大きい物がぶつかったり、壊れたりするガシャンという音を表わすpatatràcのような珍しい擬音語も存在する。

そこで、擬音語の頻出する日本文学作品2種（吉本ばなな『キッチン』と夏目漱石『草枕』）とそれぞれの英語訳とイタリア語訳を資料として、英語とイタリア語における擬音語の使用頻度を比較・対照してみたいと思う。

なお、日本語には、にこにこ、そわそわ、すべすべ、などのように、実際には音を伴わないのに、あたかも音を発しているかのように、人や事物の状態を描写する「擬態語」が存在するのであるが、これらは本稿では取り扱わないこととする。

大坪併治氏は擬音語の構造を以下のように設定しておられる（用例の一部は古浦が変更）。



次節以降の記述・分析には、これらの型による分類法を導入することとする。

§ 2 吉本ばなな『キッチン』に現われる擬音語と、その英語訳とイタリア語訳

(なお、紙面の都合上、対応箇所のみを提示し、擬音語³⁾には下線をほどこすこととする。用例末の【】内には、擬音語の出現の有無とその型を出現ページ数とともに記しておく。aは日本語原文、bは英訳、cは伊訳。)

- (1a) 冷蔵庫のぶんという音【単一型 p.9】；(1b) The hum of the refrigerator
【単一型 p.5】；(1c) ronzio del frigorifero【単一型 p.10】
- (2a) ピンポン【修正反復型 p.10】；(2b) Dingdong【修正反復型 p.5】；(2c) Dindon
【修正反復型 p.11】
- (3a) (私は)ばしゃばしゃ歩いていった【単純反復型 p.14】；(3b) I walked, sloshing
【非擬音語要素 p.8】；(3c) Cammino【 ϕ p.13】
- (4a) ドアがガチャガチャと開いて【単純反復型 p.18】；(4b) with the scratch of
a key in the door【非擬音語要素 p.11】；(4c) il rumore della porta che
si apriva【 ϕ p.15】
- (5a) はあはあ息をつきながら【単純反復型 p.19】；(5b) panting【非擬音語要素 p.
11】；(5c) affannata【非擬音語要素 p.16】
- (6a) ガチャガチャならしながら【単純反復型 p.21】；(6b) jingling【単一型 p.12】
(6c) facendo dondolare【非擬音語要素 p.17】
- (7a) ぺたぺたとはだして【単純反復型 p.27】；(7b) I just had to go back【 ϕ
p.16】；(7c) scalzi【 ϕ p.19】
- (8a) くすくす笑った【単純反復型 p.31】；(8b) shook with laughter【非擬音語要
素 p.19】；(8c) ridendo【 ϕ p.22】
- (9a) ぼりぼり食べながら【単純反復型 p.32】；(9b) munching【非擬音語要素 p.19】
(9c) mangiava con gusto【非擬音語要素 p.22】
- (10a) 風でわさわさゆれる木々【単純反復型 p.38】；(10b) the trees trembled in the
wind, rustling【単一型 p.24】；(10c) gli alberi agitati dal vento【非擬音
語要素 p.26】
- (11a) あたたかい風がごうごう吹いていた【単純反復型 p.46】；(11b) a warm wind came
roaring up【非擬音語要素 p.28】；(11c) un vento caldo soffiava【 ϕ p.29】
- (12a) ぎいと音をたててドアが開いて【単一型 p.49】；(12b) the door opened with
a squeal of hinges【非擬音語要素 p.30】；(12c) Il rumore della porta che
si apriva【非擬音語要素 p.31】
- (13a) わんわん泣いた【単純反復型 p.57】；(13b) I sobbed【非擬音語要素 p.35】；
(13c) scoppiai a singhiozzare【非擬音語要素 p.35】
- (14a) カギをちゃりちゃり言わせながら【単純反復型 p.77】；(14b) my keys jingling
【単一型 p.47】；(14c) le chiavi che tintinnavano【単純反復型 p.47】

- (15a) しゅうしゅう音をたてて【単純反復型 p.78】;(15b) with a hissing sound【単一型 p.48】;(15c) con un sibilo【非擬音語要素 p.48】
- (16a) (私は)はあはあ息をついていた【単純反復型 p.79】;(16b) panting【非擬音語要素 p.48】;(16c) ansimante【非擬音語要素 p.48】
- (17a) ふきんを全部洗ってさらし、乾燥機にかけてごうんごうんと回っている…【単純反復型 p.90】;(17b) go round and round【非擬音語要素 p.56】;(17c) ruotare senza interruzione…【非擬音語要素 p.55】
- (18a) 袋をどさりと置く【単一型 p.94】;(18b) with a thud【非擬音語要素 p.60】(18c) con un tonfo【単一型 p.58】
- (19a) チン、とエレベーターが止まり【単一型 p.96】;(19b) with a little jerk【非擬音語要素 p.61】;(19c) l'ascensore si fermò【φ p.59】
- (20a) セロリをぼりぼり食べながら【単純反復型 p.99】;(20b) munching celery【非擬音語要素 p.63】;(20c) mangiucchiare un pezzo di sedano【非擬音語要素 p.60】;(21a) 帰ってばたんと寝ると…【単一型 p.100】;(21b) collapse into bed…【非擬音語要素 p.63】;(21c) mi addormentavo di botto…【非擬音語要素 p.61】
- (22a) 目ざましをかけておいたのがジリジリうるさいなあ【単純反復型 p.104】;(22b) the god-awful ring of the alarm clock【非擬音語要素 p.67】;(22c) Sentendo un trillo insistente【単一型 p.63】
- (23a) するとガチャン!【単一型 p.105】;(23b) with a crash【単一型 p.67】;(23c) Ci fu un clic【単一型 p.63】
- (24a) グーグー寝ている【単純反復型 p.105】;(24b) sound asleep【非擬音語要素 p.67】;(24c) dormiva…pesantemente【非擬音語要素 p.64】
- (25a) 2人がくすくす笑っている様子【単純反復型 p.109】;(25b) The sight of them giggling【単一型 p.70】;(25c) Loro due che ridevano【φ p.65】
- (26a) コツコツ音をたてて【単純反復型 p.115】;(26b) With the click, click【単純反復型 p.73】;(26c) con un forte rumore【非擬音語要素 p.69】
- (27a) ばーん、とドアをすごい音で閉めて【単一型 p.115~116】;(27b) slamming it with a bang【単一型 p.73】;(27c) sbattendo fragorosamente la porta【非擬音語要素 p.69】
- (28a) 凍った風がぴゅうと吹き込む【単一型 p.123】;(28b) a freezing draft came blowing in【φ p.78】;(28c) penetrò un vento gelido【φ p.73】
- (29a) 店のおばさんが…どっかんと水を置いた【単一型 p.131】;(29b) The waitress …slammed a glass of water down before me【非擬音語要素 p.83】;(29c) La padrona del ristorante … con fare brusco mi piazzò davanti un bicchiere

d'acqua 【非擬音語要素 p. 77】

- (30a) 高くから細い滝がざあざあ音をたてて 【単純反復型 p.149~150】 ; (30b) the high, thin stream kept up a steady sound of falling water 【非擬音語要素 p.95】 ;(30c) Dall'alto una sottile cascata cadeva con un suono scrosciante 【単一型 p.88】
- (31a) ずずつと音がして、熱い痛みが右の腕に走った 【単一型 p.151】 ;(31b) I heard a ripping sound, and a searing pain shot up my right arm 【非擬音語要素 p.97】 ;(31c) Si sentì un bang e un dolore acutissimo mi attraversò il braccio destro. 【単一型 p.89】
- (32a) (雄一は)あわてて窓をがらがら開けた 【単純反復型 p.153】 ; (32b) Flustered, he opened the window. 【φ p.98】 ;(32c) Solo allora, confuso, aprì rumorosamente la finestra. 【非擬音語要素 p.90】
- (33a) 廊下をぱたぱた走るスリッパの音 【単純反復型 p.160】 ; (33b) the pit-a-pat of slippers...in the hall 【修正反復型 p.102】 ;(33c) un rumore di pantofole che andavano su e giù per il corridoio 【非擬音語要素 p.94】
- (34a) いつもちりちりとかすかな澄んだ音が聞こえた 【単純反復型 p.168】 ;(34b) we heard its faint, clear tinkling sound 【単一型 p.110】 ;(34c) udivamo quel tintinnio fievole e argentino. 【単純反復型 p.100】
- (35a) ざあざあと力強く川音が響き 【単純反復型 p.174】 ;(35b) The river was roaring, 【非擬音語要素 p.114】 ;(35c) Il fiume scorreva con un suono fragoroso... 【非擬音語要素 p.103】
- (36a) 彼女がふふ、と笑うのがわかった 【単純反復型 p.192】 ; (36b) I heard little puffs of laughter 【非擬音語要素 p.126】 ;(36c) Mi accorsi che rideva. 【φ p.113】
- (37a) ちりちりと鈴の音が遠ざかっていった 【単純反復型 p.200】 ; (37b) The tinkle of the bell disappeared 【単一型 p.132】 ;(37c) Il suono del campanello si allontanava tintinnando 【単純反復型 p.118】
- (38a) 木々が、風にざわざわとゆれる 【単純反復型 p.216】 ;(38b) the rustling trees trembled in the wind 【単一型 p.144】 ;(38c) alberi che oscillavano al vento con un fruscio 【単一型 p.127】
- (39a) 川音だけがごうごう響く 【単純反復型 p.217】 ;(39b) The only sound the roaring of the river 【非擬音語要素 p.144】 ; (39c) Si sentiva solo il fragore dell'acqua. 【非擬音語要素 p.128】
- (40a) 風で窓ががたがたゆれる 【単純反復型 p.222】 ;(40b) I heard the windows rattle in the wind. 【単一型 p.148】 ; (40c) Il vetro della finestra vibrava

forte al vento. 【非擬音語要素 p.131】

- (41a) しーって言って人さし指をたてて【単一型 p.224】 ; (41b) She...put her finger to her lips, and said, ‘Shhhhh’. 【単一型 p.149】 ; (41c) Allora lei si è messa un dito sulle labbra e ha fatto ‘Shh...’... 【単一型 p.132】

§ 3 データの分析 (その1)

日本語原文『キッチン』に現われる擬音語は全体で41例であった。その内訳としては単一型11例、単純反復型29例、修正反復型1例、合成型ゼロであった。本節では、これらの用例が英語訳・イタリア語訳においてどのような型で対応しているか?、あるいは非擬音語要素で対応しているか?あるいは全く無視されているか?という観点から分析を進めたいと思う。巻末の表1によれば、“日本語原文が単一型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例は英語訳では4例、イタリア語訳では5例であった。また、日本語原文が複合型擬音語のうち単純反復型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例は、英語訳では9例、イタリア語訳では3例であった”などのことが分かる。表1の結果をまとめると、以下のようになるであろう。

- ①日本語原文の擬音語41例に対して、英語訳が擬音語で対応している用例は16 (4 + 9 + 1 + 1 + 1 = 16) 例であって、全体的に言えば、16/41 = 約39%である。
- ②日本語原文の擬音語41例に対して、イタリア語訳が擬音語で対応している用例は12 (5 + 3 + 3 + 1 = 12) 例であって、全体的に言えば、12/41 = 約29%である。
- ③上記の結果①と結果②により、英語のほうがイタリア語よりも擬音語の使用頻度が高いと言える。
- ④日本語原文の単一型擬音語に対して、擬音語で対応させる場合、英語訳でもイタリア語訳でも、単一型で対応させる傾向が見られる。
- ⑤日本語原文の複合型擬音語に対して、擬音語で対応させる場合、英語訳では単一型で対応させる傾向が見られる (単一型 : 複合型 = 9 : 3) のに対して、イタリア語訳ではそのような傾向は見られない (単一型 : 複合型 = 3 : 4) 。
- ⑥上記の結果④と結果⑤により、英語のほうがイタリア語よりも単一型擬音語を好む傾向があると言える。

§ 4 夏目漱石『草枕』に現われる擬音語と、その英語訳とイタリア語訳

(紙面の都合上、英語訳とイタリア語訳に関しては対応型と出現箇所のみとする)

- (1a) (鶏が) ククク、クククと騒ぎ出す【単純反復型 p.17】 ; (1b) 【単一型 p.27】
(1c) 【単純反復型 p.21】
- (2a) 雄が太い声でこけっここと云う【単一型 p.18】 ; (2b) 【単一型 p.27】 ; (2c) 【単一型 p.22】

- (3a) 雌が細い声でけけっこつこと云う【単一型 p.18】；(3b)【単一型 p.27~28】；
 (3c)【単一型 p.22】
- (4a) こゝゝと馳け出した夫婦は【単純反復型 p.19】；(4b)【単一型 p.29】；(4c)
 【非擬音語要素 p.23】
- (5a) 竈のうちがばちばちと鳴って【単純反復型 p.20】；(5b)【非擬音語要素 p.30】
 (5c)【単一型 p.24】
- (6a) じゃらんじゃらんと云う馬の鈴【単純反復型 p.22】；(6b)【単一型 p.32】；
 (6c)【単純反復型 p.27】
- (7a) どどんどどんと大きな濤が人の世を威嚇しに来る【単純反復型 p.29】；(7b)
 【非擬音語要素 p.42】；(7c)【非擬音語要素 p.37】
- (8a) ほーう、ほけきょうと鶯が…高音を不意に張った【単一型 p.52】；(8b)【単一
 型 p.71】；(8c)【単一型 p.67】
- (9a) (鶯が)ほーう、ほけきょう。ほー、ほけっきょうと、つづけ様に囀る【
 修正反復型 p.52】；(9b)【単純反復型 p.71】；(9c)【単純反復型 p.67】
- (10a) 髪剃が頬にあたる時はがりりと音がした【単一型 p.55】；(10b)【非擬音語要素
 p.75】；(10c)【非擬音語要素 p.72】
- (11a) 揉み上の所ではぞきりと動脈が鳴った【単一型 p.55】；(11b)【非擬音語要素
 p.75】；(11c)【非擬音語要素 p.72】
- (12a) 頤のあたりに利刃がひらめく時分にはごりごり、ごりごりと…怪しい声が出た【
 単純反復型 p.55】；(12b)【単一型 p.75】；(12c)【非擬音語要素 p.72】
- (13a) かちやりと、小刀があたる度に、赤い味が笹のなかに隠れる【単一型 p.61】；
 (13b)【単一型 p.80】；(13c)【単純反復型 p.77】
- (14a) ホゝゝと鋭どく笑う女の声【単純反復型 p.83】；(14b)【非擬音語要素 p.109】
 (14c)【非擬音語要素 p.109】
- (15a) 縁を越す湯泉の音がさあさあと鳴る【単純反復型 p.83】；(15b)【単一型 p.109】
 (15c)【非擬音語要素 p.109】
- (16a) キキーと鋭どい羽搏をして一羽の雉子が藪の中から飛び出す【単一型 p.101】；
 (16b)【φ p.127】；(16c)【単純反復型 p.131】
- (17a) 寸燐をシュツと擦る【単一型 p.106】；(17b)【φ p.134】；(17c)【φ p.137】
- (18a) ぶくぶくと泡が二つ浮いて、すぐ消えた【単純反復型 p.107】；(18b)【非擬音語
 要素 p.134~144】；(18c)【φ p.138】
- (19a) ぼかんと幽かに音がした【単一型 p.107】；(19b)【単一型 p.135】；(19c)【単
 一型 p.138】
- (20a) ぼたり赤い奴(=椿の花)が水の上に落ちた【単一型 p.108】；(20b)【φ p.136】
 (20c)【φ p.139】

- (21a) がさがさがさりと足音がする【単純反復型 p.109】 ;(21b)【単一型 p.138】 ;(21c)【単一型 p.141】
- (22a) 鳩の音がくうくうくうと聞える【単純反復型 p.119】 ;(22b)【単純反復型 p.151】 ; (22c)【単純反復型 p.153】
- (23a) 鳩がくうくうくうと鳴く【単純反復型 p.125】 ; (23b)【単一型 p.156】 ; (23c)【単純反復型 p.157】
- (24a) かちりと音がして、閃めきはすぐ消えた【単一型 p.128】 ;(24b)【単一型 p.160】 ; (24c)【非擬音語要素 p.162】
- (25a) やがて、鶏が大きな声を出して、こけこっくううと鳴く【単一型 p.140】 ;(25b)【単一型 p.174】 ; (25c)【単一型 p.176】
- (26a) 白い家鴨はがあがあと鳴いて川の中迄出て来る【単純反復型 p.144】 ;(26b)【非擬音語要素 p.178】 ; (26c)【非擬音語要素 p.182】
- (27a) とんかたんと機を織る音が聞える【合成型 p.144】 ; (27b)【単一型 p.178】 ; (27c)【合成型 p.182】
- (28a) 女の唄が、はああい、いようう——と水の上迄響く【合成型 p.144】 ;(28b)【φ p.178】 ; (28c)【合成型 p.182】
- (29a) 家鴨ががあがあ鳴く【単純反復型 p.146】 ; (29b)【単一型 p.181】 ; (29c)【非擬音語要素 p.184】
- (30a) じゃらんじゃらんと号鈴が鳴る【単純反復型 p.148】 ; (30b)【非擬音語要素 p.182】 ; (30c)【φ p.187】
- (31a) 空では大きな音がどんどんどんと云う【単純反復型 p.149】 ;(31b)【非擬音語要素 p.183】 ; (31c)【単一型 p.187】
- (32a) 車掌が、ぴしゃりぴしゃりと戸を閉てながら、こちらへ走って来る【単純反復型 p.149】 ; (32b)【単一型 p.183】 ; (32c)【非擬音語要素 p.188】
- (33a) 未練のない鉄車の音がごっとりごっとりと調子を取って動き出す【単純反復型 p.149】 ; (33b)【非擬音語要素 p.184】 ; (33c)【φ p.188】
- (34a) 鉄車はごっとりごっとりと運転する【単純反復型 p.149】 ; (34b)【単一型 p.184】 ; (34c)【非擬音語要素 p.188】

§ 5 データの分析 (その2)

日本語原文『草枕』に現われる擬音語は全体で34例であった。その内訳としては、単一型13例、単純反復型18例、修正反復型1例、合成型2例であった。本節では第3節で行なった分析と同じ手法で論を進めていきたいと思う。

巻末の表2によれば、“日本語原文が単一型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例は英語訳では7例、イタリア語訳では5例であった。また、日本語原文が

複合型擬音語のうち単純反復型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例は英語訳では10例、イタリア語訳では3例であった”などのことが分かる。なお、『キッチン』の場合と異なり、『草枕』では合成型擬音語の用例が少々見つかった。

表2の結果をまとめると、次のようになるであろう。

- ①日本語原文の擬音語34例に対して、英語訳が擬音語で対応している用例は20(7+10+1+1+1=20)例であって、全体的に言えば、 $20/34=約59\%$ である。
- ②日本語原文の擬音語34例に対して、イタリア語訳が擬音語で対応している用例は17(5+2+3+4+1+2=17)例であって、全体的に言えば、 $17/34=約50\%$ である⁴⁾。
- ③上記の結果①と結果②により、英語のほうがイタリア語よりも擬音語の使用頻度が高いと言える。
- ④日本語原文の単一型擬音語に対して、擬音語で対応させる場合、英語訳では例外なく単一型で対応させている(単一型:複合型=7:0)し、イタリア語でもそのような傾向が感じられる(単一型:複合型=5:2)。
- ⑤日本語原文の複合型擬音語に対して、擬音語で対応させる場合、英語訳では単一型で対応させる傾向が見られる(単一型:複合型=11:2)のに対して、イタリア語訳では逆に複合型のほうが優勢であるように思われる(単一型:複合型=3:7)。
- ⑥上記の結果④と結果⑤により、英語が単一型擬音語を好むのに対して、イタリア語は臨機応変に単一型と複合型を使い分けている。

§ 6 結論

本稿では、現代作家の吉本ばななと明治の文豪夏目漱石という時代差・男女差をも考慮に入れたテキスト選択の許での調査であった。テキストによる差や訳者による違いも多少はあろうかと思われる。が、それはそれとして、第3節と第5節の分析結果を総合すると結論として次の事実が抽出できそうである。

- ①英語のほうがイタリア語よりも擬音語の使用頻度が高い。(すなわち、『キッチン』での擬音語対応例は、英語訳39%、イタリア語訳29%。『草枕』での擬音語対応例は英語訳59%、イタリア語訳50%。両テキストともに10%程度の使用頻度の差が見られる)
- ②英語は、日本語原文が単一型擬音語であれ複合型擬音語であれ、単一型擬音語で対応させようとする傾向が見られる。(すなわち『キッチン』における単一型:複合型の使用比率は、原文が単一型の場合4:0、原文が複合型の場合9:3。『草枕』における単一型:複合型の使用比率は、原文が単一型の場合7:0、原文が複合型の場合11:2)
- ③イタリア語は、日本語原文が単一型擬音語の場合には単一型擬音語で、日本語原文が複合型擬音語の場合には複合型擬音語で、対応させようとする傾向が見られる。(す

なわち『キッチン』における単一型：複合型の使用比率は、原文が単一型の場合5：0、原文が複合型の場合3：4。『草枕』における単一型：複合型の使用比率は、原文が単一型の場合5：2、原文が複合型の場合3：7)

注

- 1) J. デュボワ (1980) p. 62
- 2) B. ミリオリーニ(1970)p. 44
- 3) 擬音語であるか否か?の判断基準として以下の辞典の語源欄の記述を利用した。なお、語源欄に「<擬音語>?」「vc. onomat. ?」として、擬音語であるか否かが疑わしいとされている場合は、【非擬音語要素】とすることとした。たとえば、英訳『キッチン』におけるこの種の用例としては、(9b), (12b), (20b), (22b)が挙げられる。
小稲義男編『新英和大辞典』第5版、研究社、1981
Il Nuovo Zingarelli(Vocabolario della lingua italiana di Nicola Zingarelli 1983, Zanichelli)
- 4) たとえば、(1c)では、実は Kukuku, kukukuとなっており、日本語原文の擬音語をローマ字化しただけの表現なのである。したがって、この種のタイプの用例はイタリア語の擬音語とは言いがたいので、別扱いにすべきなのかもしれない。

テキスト・参考文献

(1)テキスト

吉本ばなな『キッチン』1990、福武書店

Banana Yoshimoto : *Kitchen*, translated from the Japanese by Megan Backus, 1993, London-Boston

Banana Yoshimoto : *Kitchen*, traduzione e postfazione di Giorgio Amitrano, 1991, Feltrinelli, Milano

夏目漱石『草枕』1974、講談社文庫

Soseki Natsume : *The Three-Cornered World*, translated by Alan Turney, 1996, Tokyo

Soseki Natsume : *Guanciaie d'erba*, traduzione di Lydia Origlia, 1983, Editoriale Nuova, Milano

(2)参考文献

大坪併治(1989) : 大坪併治『擬声語の研究』明治書院

J. デュボワ(1980) : J. デュボワほか著、伊藤晃ほか編訳『ラールス言語学用語辞典』大修館

B. ミリオリーニ(1970) : B. ミリオリーニ著、岩倉具忠訳『現代イタリア語の話』

表1 (『キッチン』)

日本語原文		用例数	対応/非対応	英語訳	伊語訳	
単一型	1 1	単一型		4	5	
		複合型	単純反復型	0	0	
			修正反復型	0	0	
合成型	0		0			
非対応	非擬音語要素 φ	7 0	4 2			
複合型	単純反復型	2 9	単一型		9	3
			複合型	単純反復型	1	3
				修正反復型	1	0
	合成型	0		0		
	非対応	非擬音語要素 φ	1 6 2	1 6 7		
	修正反復型	1	単一型		0	0
			複合型	単純反復型	0	0
				修正反復型	1	1
	合成型	0		0		
非対応	非擬音語要素 φ	0 0	0 0			
合成型	0	単一型		0	0	
		複合型	単純反復型	0	0	
			修正反復型	0	0	
合成型	0		0			
非対応	非擬音語要素 φ	0 0	0 0			
計				4 1	4 1	

表2 (『草枕』)

日本語原文		用例数	対応/非対応	英語訳	伊語訳	
単一型	1 3	単一型		7	5	
		複合型	単純反復型	0	2	
			修正反復型	0	0	
合成型	0		0			
非対応	非擬音語要素 φ	3 3	4 2			
複合型	単純反復型	1 8	単一型		1 0	3
			複合型	単純反復型	1	4
				修正反復型	0	0
	合成型	0		0		
	非対応	非擬音語要素 φ	7 0	8 3		
	修正反復型	1	単一型		0	0
			複合型	単純反復型	1	1
				修正反復型	0	0
	合成型	0		0		
非対応	非擬音語要素 φ	0 0	0 0			
合成型	2	単一型		1	0	
		複合型	単純反復型	0	0	
			修正反復型	0	0	
合成型	0		2			
非対応	非擬音語要素 φ	0 1	0 0			
計				3 4	3 4	